

■ Oracle使用までの設定

● Perfumeモジュールの取得と配置

Perfume.zipを解凍し、Cドライブ直下に配置する

(Cドライブ直下以外に配置する場合は設定ファイルなどのパス修正が必要となる)

● JDBCの取得と配置

OracleのサイトからJDBCドライバを取得、配置する

対象ファイル: ojdbc6-11.2.0.3.0.jar

配置先: C:¥Perfume¥lib

● 設定ファイルの変更

設定ファイルをOracle用に変更する

C:¥Perfume¥setting¥pj_setting.xml

・設定ファイルの下記部分を修正する

<type>Oracle</type>

<username>lportal</username>

← スキーマ名を記載

<password>pass</password>

← パスワードを記載

<url>jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:xe</url>

← oracleの接続詞を記載

<driver_class_name>oracle.jdbc.driver.OracleDriver</driver_class_name>

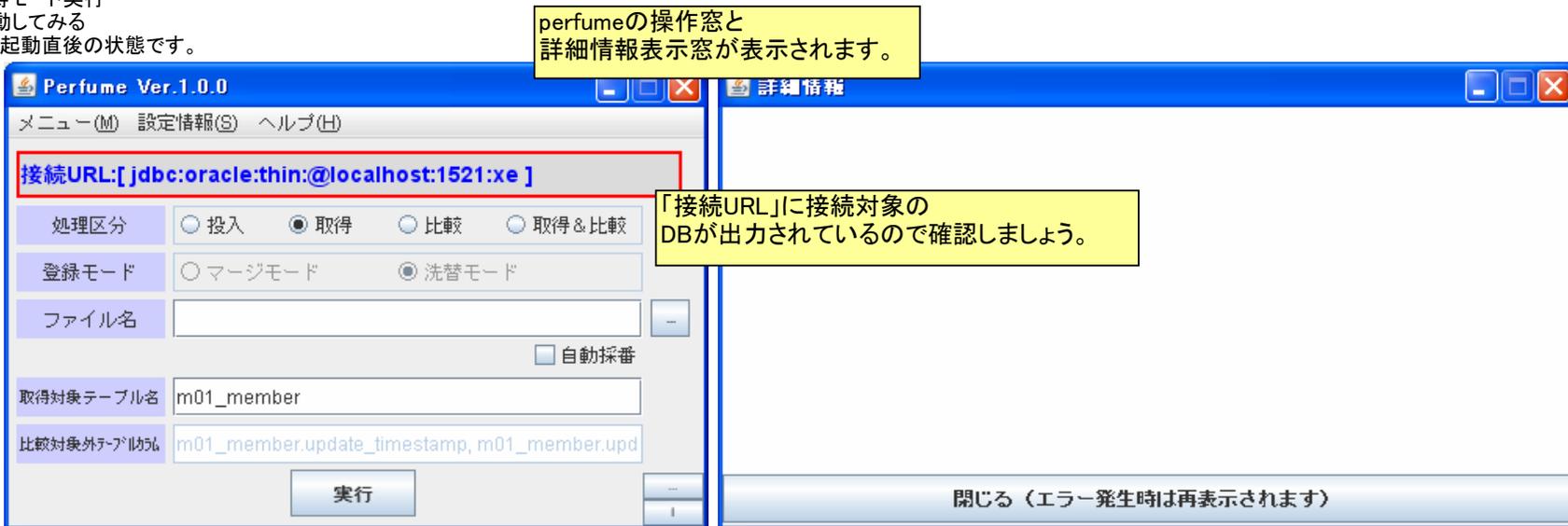
<schema_name>lportal</schema_name>

← スキーマ名を記載

・<type>がOracle以外のものが有効になっていた場合、無効にし、oracle部分を有効にする

■ 起動～取得モード実行

1. 起動してみる
起動直後の状態です。

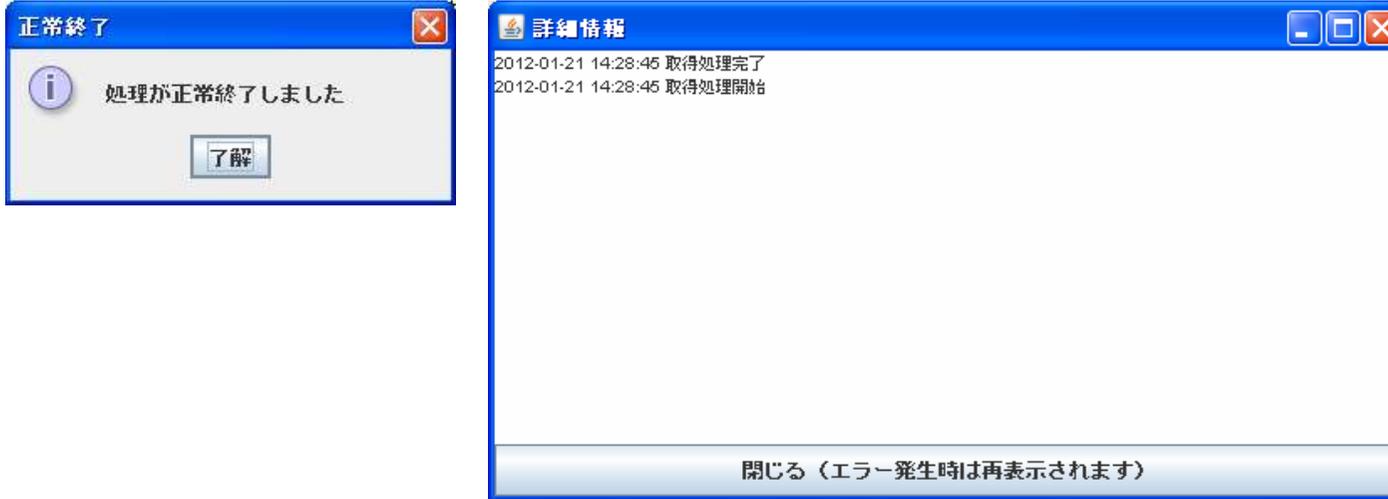


2. 取得モードの実行
まずは最初に投入したデータを取得してみましょう



処理区分を「取得」、
ファイル名に出力したいファイル名をフルパスで記述、
取得対象テーブル名は存在するテーブル名を記載してください
※ ファイル名は日本語も使用できます。

実行を押すと下記のダイアログと詳細情報に取得完了のログが出力されます



取得ファイルを開いてみましょう。
DBの内容がファイルの「OUTPUT」シートに出力されています。